



錦城高校新聞 題字 井口 文章 再刊 第381号 印刷・発行 錦城高等学校新聞委員会 編集室 2022 みんなでつくる 錦城高校新聞

# 桜舞う中 踏み出す一歩

## 第60回 入学式挙行

4月7日(木)に、徹底した新型コロナウイルス感染対策のもと、第60回入学式が行われた。留学生1人を含む新1年生505人が新たに錦城生の一員となった。

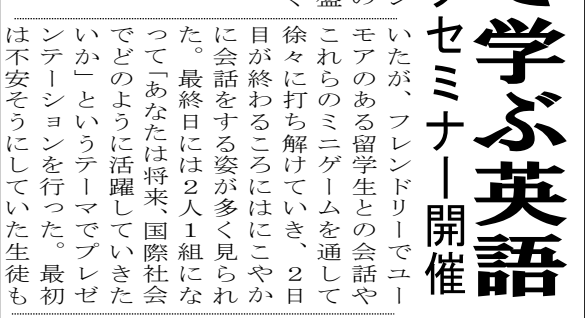


1年生の登校の様子 クラス名簿をもらい、自分のクラスを確認する

一面…入学式が行われました！  
新1年生の錦城生活がスタート！  
二面…今年で錦城は開校60周年！  
現在までの歴史を辿る

## 留学生との交流で学ぶ英語

3日間で英語力を養う  
2月19日(土)〜21日(月)祝にかけて、書道室にてISA主催のイングリッシュ・スプリング・セミナーが実施された。



プレゼンテーションの準備をしている様子

留学生との軽いディスカッションや、親睦を深めるためのミニゲームが行われた。序盤は緊張している生徒が数多く見られたが、徐々に打ち解けていき、2日目以降は終るころにはにこやかに会話をしている姿が多く見られた。

期待と不安を胸に入學  
花曇りの中、60回生となる新入生が登校してきた。緊張感漂う中、60回生と新入生が交わった。

自立した3年間を  
阿部一朗新校長先生は、新入生に向けて「自ら進んで行動することが大切です。勇気を出してチャレンジしてください」と話した。

留学生と錦城生が振り返る  
現在政治について勉強している、香港出身のKristinaさんは「生徒の皆さんに楽しんでほしいので、笑顔が見られて良かったです」と話す。

新入生が意気込む  
「友達ができるかどうか不安です」と緊張した面持ちで語る安谷屋萌香さん(1L)。

### 新学期が始まりました！

今年度も、手洗い、消毒、マスク着用を徹底し、体調管理に気をつけましょう！

### むらさき草

春休みに、ドラマ「ラジエーションハウス」を視聴した。この作品では、主人公の五十嵐唯織をはじめとする8人の放射線技師が、検査を通して患者に潜む病を見つけて出そうと奮闘する姿を描いている。

### あなたも小平博士になろう！

57回生の山口明日香さん(元3A)、満矢健太さん(元3C)、木戸大翔さん(元3C)、山田祐菜さん(元3D)が小平市にまつわるパンフレット1500部を制作した。

<h4>クッキング同好会</h4> <p>活動場所:6階調理室 活動:月1回 今活動している部員もほとんど料理をしないので、誰でも大歓迎です！興味のある人は顧問の先生に声をかけて下さい！</p>	<h4>弓道部</h4> <p>弓を引いてみませんか？ 興味のある方は弓道部へ</p>	<h4>陸上競技部</h4> <p>勇往邁進 初心者でも大歓迎！！ 興味のある人はグランドまで！！</p>	<h4>バレーボール部</h4> <p>週5日 体育館で活動しています。</p>	<h4>女子硬式テニス部</h4> <p>オムニコートまたはクレートコートで活動中！ 初心者も大歓迎！</p>	<h4>男子硬式テニス部</h4> <p>週六日 テニスコートで活動 興味のある方は部室又はテニスコートまで！！</p>
---	---	---	--	---	--

# 解明! モニュメントの歴史

来年、錦城は60周年を迎える。これに先駆け、新聞委員会編集部の59回生の企画として、校内の歴史ある石像・石碑について紹介する。普段目にはしていないあの石像は、誰が、どのような目的で建てたのだろうか。また、現在の錦城について生徒にインタビューを行った。伝統と革新の狭間で揺れ動く、錦城のこれからの姿とは。(59回生共同取材)

校門を入ってすぐの中庭に、金魚の池と隣り合った『三四郎』と彫られた石碑を、一度は目にしたことがあるのではないだろうか。また、同時に疑問に思うだろう「なぜ『三四郎』と彫られているのだろう」と。この石像は、遡ること23年前、当時錦城が男子校だった時の最後の世代、34回生の卒業記念品として建てられた。三四郎とは、34回生の「34」と、夏目漱石の小説『三四郎』の主人公、小川三四郎がかけられたものことだ。また、この三四郎は34回生の学年だよりのタイトルとしても起用されていた。当時の学年主任の先生によると「小説の主人公、三四郎が数々の困難に立ち向かい、乗り越えていく姿から、三四郎のように錦城生にも苦悩を乗り越えて、苦しくも楽しい高校生活を送ってほしい」という思いを込めてタイトルに採用したそう。また、そこから派生し34回生は「三四郎学年」と呼ばれるようになった。そして、三四郎学年が卒業する際に、保護者が中心となり話し合った結果、卒業記念品として三四郎の石碑が制作された。日々忙しく勉強や部活に追われ、逃げ出したいくなる錦城生も少なくはないだろう。だが、そんなときは三四郎の石碑を見ていつの時代も歴代の先輩達が苦悩から逃げず、立ち向かってきたことを思いだしてほしい。きっとあなたも踏ん張れるはずだ。(歩)

## 3 『三四郎の志』



普段は車で隠れている

## 1 『望』 毎朝見かける石像の謎



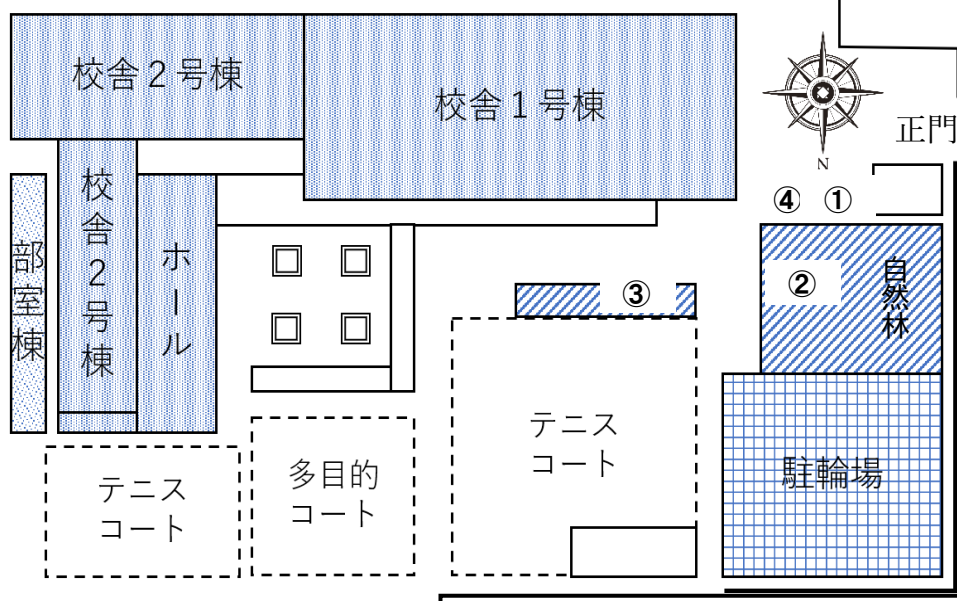
堂々と天を仰ぐ『望』

正門付近で錦城生を毎朝出迎えてくれるモニュメントがある。そのモニュメントの名前は『望』。「第1回の卒業式にちなんで、その記録を残したい」という思いから、第1回の卒業式に間に合うように学校の校歌と共に制作された。また、この『望』の制作者は東京藝術大学の教授であり、大正7年に錦城中学校を卒業した我々の先輩にあたる山本富市氏。本来、どの高校にも寄贈品を製作する際は業者に依頼するのだが「業者と錦城生の間に血を通わせたい」という思いから、山本富市氏に依頼。制作過程では制作コストの問題や期間の問題などが多くあったそうだが、見事な作品に仕上がった。そして、1966年3月1日、1回生の卒業式が挙行された日の午後2時に除幕式が行われた。この『望』には「若者は望をもつものである」という願いが込められている。今回の取材で、今まで我々が朝に何気なく見ていたモニュメントにも、実は込められている想いがあるということが判明した。皆さんも、ぜひこれを機に、込められた想いを知った上で、『望』をもう一度見てほしい。これまでとは違った一面が見えるかもしれない。(桂)

## 4 『校歌碑』 校歌に懸ける想い

錦城の校歌が作られたのは、今から約56年前。男子校として開校してから、3年目のことだった。1回生の卒業式を前に、卒業生を校歌と共に送り出したいという思いから、当時教頭を務めていた中須賀哲朗先生を中心に、錦城の先生方によって作詞が行われた。

構成としては、1番で2・3年生が新入生(=友がら)に激励の意を込めて歌い、2番で1・2年生が卒業生たち(=先輩)を称え、3番で全員(=同窓)が一緒になって、学校や自分たちの未来を歌い上げている。当時は有名な作詞家に校歌の作詞を依頼するのが一般的だったが、自分たちの高校にマッチした校歌を作りたいという思いから、敢えて独自の作詞を選択したそう。職員会議での歌詞の承認を経て、続いて作曲が行われた。作曲は、当時神田の錦城学園高校で音楽の教員を務めており、東京音楽学校(現東京藝術大学)の出身であった間紀徹先生に依頼。間紀先生はよく多摩川の川原を歩いて作曲されることが多かったが、同先生によると、錦城の校歌は、広い川原の空気を吸いながら歩くうちに3行目の歌詞のメロディーが流れ始め、一気に完成に至ったそう。間紀先生自身が校歌を歌ったレコードも作られたそうだが、文化祭で貸し出しをしていた際にひびが入って割れてしまい、現存はしていない。生徒の反応も上々で、体育館横の通路にピアノを置き、間紀先生の指導の下、皆で校歌練習を行ったそう。間紀先生は「校歌・応援歌などは、昔は1つの学校にたくさんの歌がありました。その学校の歌を皆で歌うことが、これからの時代ももっと盛んになって欲しいです。共通の歌を歌うことで、皆の気持ちが1つに繋がると 생각합니다」とメッセージを残している。私たちも、歌詞に込められた思いを汲み、先輩方が紡いできた歴史に思いを馳せながら、唯一無二の校歌を歌い継いでいきたい。(金)



駐輪場から出て右側の中庭に『飛躍』という名の、随所にフクロウやトンボといった鍛金彫刻があしらわれた総金属製のモニュメントがある。このモニュメントは、小平錦城の開校40周年を記念して作られたものだそう。錦城はまもなく開校60周年を迎えるので、およそ20年前に作られたことになる。『飛躍』という文字には「錦城生が社会に大きく羽ばたいてほしい」という願いがこめられている。制作者は彫刻家である相武常雄氏。相武氏はかねてから本校と縁が

## 2 『飛躍』 刻まれた飛躍の願い



『Kinjo』と読める

あり、相武氏の厚意とPTAの援助によって、このモニュメントの制作が実現した。実はこのモニュメントを真上から見ると筆記体のアルファベットで「Kinjo」と読めるそう。事務室前にある新校舎西階段の6階付近からが最もよく見えるので、ぜひそれぞれの目で確かめてほしい。(香)

## 他にもこんな石像が...

駐輪場を出てすぐ右側、自然林にひっそりと石碑が建てられ、大きく『夢』と彫られている。これは43回生の卒業記念品として建てられたものだ。普段、他の石像などが強調されてなかなか目立たない『夢』。なぜ『夢』と彫られたのかは不明で調査中だが、少なくとも歴代の錦城生にとって「夢」という存在が大きかったということは、確かにこの石碑が証明している。(歩)

校門を入ってすぐ右側に、少女が体育座りをして鳥と見つめ合っている石像がある。この石像は、28回生の卒業記念品として学校に寄贈されたものだそう。しかし、その名称や込められた意味に関しては現在も不明。調査中だ。(香)

2号棟の昇降口前に、独特な雰囲気を醸し出すモニュメントがある。銘は『飛翔』といわれ、青木三四郎さんによって制作された。黒味がかかった楕円形の石の中に親子の鳥の像が彫られているのが特徴だ。まじまじと見ているとモニュメントの中に引き込まれるような感覚を味わうことができる。(桂)

昇降口を出て正門へ向かう途中、『飛躍』の横に古風な街灯が見える。これは、50回生が卒業記念として寄贈したものだ。最終下校時刻が近づくと、周囲は暗闇に包まれ、視界も悪くなる。そんなときこの街灯は、私たちの身の安全を守り、心も明るく照らしてくれる。(金)

錦城60周年に生徒は錦城高等学校開校60周年を迎えることになり、校内にいた錦城生にインタビューを実施した。3年生のTさんは、錦城が60周年を迎えることについて「この高校にはまだ2年間しか在学していないですが、伝統を感じます」と話す。2年生のAさんは、今の錦城を見て「錦城のおかげで、勉強は意欲的に取り組むことが出ていますが、校則で『本当に必要なものがあるのか?』と疑問に感じるものもあります」と語った。また、3年生のHさんは「錦城では昨年、女子の制服にストラップが導入され、ジェンダーレスへの第一歩を踏み出したと思います。まだまだ校内にジェンダーの問題はたくさんあると思うので、解決に向けて積極的に取り組んでほしいです」と錦城の未来への思いを口にした。もうすぐ60歳となる錦城だが、まだまだ成長の伸び代はありそうだ。(桂)

### ワンダーフォーゲル部

部室棟1階  
ワンダーフォーゲル部室まで

### 空手道部

初心者・他流派大歓迎  
活動場所: 空手道場  
体育館前で待っています♡

### あなたの部活を宣伝してみませんか?

新1年生が入学し、多くの生徒が入部先を探していると思います。そんな新1年生が今、必要なのは部活動の情報です。実際に活動している部員にしか分からない各部活動の魅力を新聞に載せて発信してみませんか? 紹介してほしい部活は、新校舎7階の生徒会室、またはお近くの編集部員まで。お待ちしております!  
新聞委員会編集部

### ほうそう!!

機材が好きな人、アパランス、良音源に興味がある人、男女問わず大歓迎です!  
活動場所: 放送室, PC室 (旧校舎2階)  
活動日: 月・水・金の放課後  
昼休みも放送室にいるのでお気軽に来て下さい!  
放送部一同

### Kinjo Dance Club

ホールで活動中!  
男女関係なく初心者大歓迎です! 興味のある人体験入部にお越し下さい!